第 2014-18 号

恵みと真理のニュース

2014 年 5 月の一次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養 5 洞 458-5 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］　永遠な命を得、主の中で真の楽しみと平安を享受しながら生きるようにしてくださった神様を賛美します

私が幼いごろ、二人の兄は異端の宗教によって熱心に通った陸軍と国内最大な企業を辞めるようになりました。この事で私は正しい信仰の教会に通う友達が伝道しても絶対に神様を不信して迫害しました。中学校に通うまで比較的に勉強が上手でしたが、親の反対にも関わらず学業を諦め職業軍人の道を選びました。軍隊を途中で除隊をして社会に出て生活するなか今の妻に出会いました。
妻は真実にイエス様を信じる家庭の娘でした。それで付き合う間私にイエス様を信じ信仰生活を勧めましたが私は無関心で一貫しました。結婚してからも妻は続けて頑張って私に福音を伝えました。その当時私たちの夫婦と一緒に暮らした義母も教会へ行くたびに“これからは私達と一緒に教会に行かない？”と言われました。そのつど私はただ何気なく“はい”と答えたりしました。今考えるなら妻と義母からいただいた聖書の御言葉と聖霊様が私も知らずに心を動かして神様と天国の福音に関して少しずつ知るようになり信仰の芽が出たようです。
ある日、妻から“天国と地獄”に関する説教のテープを聞かせてもらいましたが、天国に関する話は好奇心ができて聞きましたが地獄の話が出ると恐くて非現実的だと考え最後まで聞けなくて止めてしまいました。何日後に一人でその結末が知りたくなって説教を最後まで聞いた後、天国と地獄の話にもっと深く知りたい心が出来ました。妻に次の週から私も教会に行ってみるので連れて行ってくれるように願いました。どころがよりによって妻は通っていた教会で様々な問題のことで心が苦しんでしばらく教会に通ってなかったのです。そうするうちに IMF があって私達が運営した小さい事業も大きい苦境に陥りました。一つ二つ取引先との契約が時消しになると仕事もなくなり休む日が繰り替えました。そのように経済的にも大変な中で恵みと真理教会のブンダン聖殿から牧師が訪ねてきました。後で知ってみるとスワン聖殿に通っている私達を知っている首区域長が私達のため特別に訪問と伝道を頼んだそうです。珍しいことですが、私が一人で家にいるときだけよく家に来られました。私に対する関心で仕方なく妻と一緒に恵みと真理教会の一部礼拝に参加しました。当会牧師の説教を聴きながら以前異端によって神様に対する不信が少しずつなくなり、キリスト信仰に対する歪曲された先入観と神様の前で高慢と高ぶった自我が壊れ始めました。
信仰生活を始めてまもなく義母が天に召された時その大変ななかでも教会の助けで無事に葬式を行なわれ、以後も職業もなく生活している私達のため教区と区域の多くの聖徒達が私の家で集まって祈りと区域礼拝を捧げてくださいました。そうしながら主だけが慰めになり力と希望になりました。
主日礼拝と平日礼拝、男性礼拝、女性区域礼拝などに熱心に参加しました。また、御言葉の恵みをたくさん受けて祈りと賛美歌のテープも買ってよく聴き賛美しながら自分も知らないうちに信仰が成長し始めました。こんな私を見て周りの人々から“早く 鍋が沸くと早くさめるという話があるけど”と心配するほど急に信仰が成長しました。しかし、そのような心配する必要がないくらい神様は日々聖霊に満たしてくださり恵みを受け男性奉仕連合会に入って教会の様々なことも積極的に参加しました。暑理執事になって男性区域長になって教会を愛し聖徒を仕える幸せが増してゆきました 。不信者のごろ好きだったお酒とタバコも神様の恵みで難しくなく止めるようになりました。
救いの恵みがどれほど大きくて驚く恵みなのか、なぜ人が救わなければならないのか知ったのでこれからは不信者である母の伝道がお急ぎでした。母は神様と教会の話は絶対しないようにとしましたが私が幼年の頃、いつも 韓服を着て聖書が入ったかばんを持ち歩いて教会に向かう祖母の姿を思い出しました。母も祖母のように美しい姿で教会に行くのを想像をしながら熱心に伝導しました。神様が選んで呼んでくださり母は主を受け入れ平安な姿で天国に召されました。神様は私達の生業でも祝福を与えてくださってようやく安定になるようになりました。妻は流産による糖尿病と高血圧で一時期、子供がいなくて心の苦難もありました。しかし、私達は希望を喪わず切に願い休まずに祈ると神様はきれいな娘をくださいました。
安手執事になってもっと真面目に忠誠して主と教会を仕えなければいけないのにその頃貪欲な心で能力の以上のお金をむさぼって大きな損失を受けて信仰生活も疎かになりました。神様がくださった職分を疎かにして霊的にさ迷い“こうしてはいけない主に戻らないと”という不従順による罪悪感で心が不便でしたが、ただ罪責だけして私の力で何とかしようとあちこち奔走する間状況はもっと悪化されました。
神様の子供が世と妥協して二つの心を抱いたことが問題でした。以前は神様の思いと聖霊の導きに従順しました。今は神様に不従順し頼らなく神様の時を待たなくて自分で何とかしようとして失望をしている私の姿を見ながら神様に両手をあげ涙を流しながら悔い改めました。許してくださり以前より熱心と熱い心で主を愛しながら完全な信仰と従順する生活をするように祈りました。こんな私を恵み深い神様は許してくださり私の心に暖かい慰めと平安を与えてくださいました。そして絶望ではなく新しい力を私にくださいました。物質の余裕と豊かさではなく神様を仕えることにもっと真の満足や喜びや幸いになる事を気づかせてくださいました。初恋の純粋と暑い熱情を回復されただ神様の中心の礼拝と御言葉の中心、教会の中心で生活するように神様は恵みを与えてくださいました。
誰か私に今まで一番よかったことは何ですか？と聞くならすぐ“イエス様を信じたことです”と答えますし、また、楽しくて幸せな理由は何ですか？と聞くなら“イエス様を受け入れ新しい命を得てイエス様を愛しながら生きるのです”と答えるでしょう。このような楽しみと幸せをくださった神様に感謝を捧げます。神様の前でいつも畏れる心で世の富と栄光ではなく主が私達にくださる褒める賞とかしらを考えながら私達の夫婦は任された職分に最善を尽くします。
“イエスがオリーブ山で座っておられると、弟子たちがやって来て、ひそかに言った。「おっしゃってください。そのことはいつ起こるのですか。また、あなたが来られて世の終わるときには、どんな徴があるのですか。」イエスはお答えになった。「人に惑わされないように気をつけなさい。わたしの名を名乗る者が大勢現れ、『わたしがメシアだ』と言って、多くの人を惑わすだろう。戦争の騒ぎや戦争のうわさを聞くだろうが、慌てないように気をつけなさい。そういうことは起こるに決まっているが、まだ世の終わりではない。民は民に、国は国に敵対して立ち上がり、方々に飢饉や地震が起こる。 しかし、これらはすべて産みの苦しみの始まりである。そのとき、あなたがたは苦しみを受け、殺される。また、わたしの名のために、あなたがたはあらゆる民に憎まれる。そのとき、多くの人がつまずき、互いに裏切り、憎み合うようになる。
偽預言者も大勢現れ、多くの人を惑わす。不法がはびこるので、多くの人の愛が冷える。しかし、最後まで耐え忍ぶ者は救われる。そして、御国のこの福音はあらゆる民への証しとして、全世界に宣べ伝えられる。それから、終わりが来る。”（マタイの福音書　24：3～14）
アーメン。苦難と試練と誘惑が多くて異端が跳梁するこの最後の日に全ての心と力を尽くして福音伝道者の使命を尽くします。ハレルヤ！

［信仰コラム］　祈りの原理(2)

″祈を聞かれる方よ、すべての肉なる者は罪のゆえにあなたに来る″(詩篇 65:2)
今月号のコラムでは誰に、誰が、いつ、どこで、なぜ、何をお祈りするのかという質問に対する答えを調べました。これが最後の 7 番目質問のどのように祈るべきかについて見てみます。
まず、祈祷の種類を分類してどのように祈るべきかを調べてみます。
第一に、静かな所で一人でする気道と様々な人が集まって協力してする祈祷があります。一人で熱中して祈祷する時間をたくさん持つことがいいです。しかし、時には多くの人が集まって協力して祈祷する必要があります。(マタイによる福音書 18:19、20)第二に、黙想祈祷と声を出してする祈祷があります。どちらも時と場所の都合を見てしなければなりません。黙想祈祷は心に浮かぶさまざまな考えを乗り越えなければならず、疲れた時には眠気が押し寄せてまともに祈祷することが難しいです。こんな時は声を出して祈祷して短く祈りしなければなりません。第三に、方言の祈りがあります。神様に秘密を言って、自分の徳を立て、令とする祈祷で有益が多いです。四つ、徹夜の祈りがあります。切迫した問題がある場合、一晩中、悩みながら心配するのではなく、夜を徹して祈祷しなければなりません。しかし、複数の日を続けて徹夜祈祷を行うのは、問題を起こしかねないということを考慮しなければなりません。五つ、断食の祈祷があります。三日以内の断食の祈祷は推奨されるべきだが、特別な事情のない限り長い間の断食祈祷あるいは頻繁に相次ぐ断食祈祷を行うのは健康上望ましいことではありません。徹夜の祈り、断食の祈祷は神様を向けて、我々の決心と覚悟そして、懇切さを積極的に示すものです。
次に、祈りする態度を分類してどのように祈るべきかを調べてみます。
第一に、感謝で祈祷しなければなりません。″何事も思い煩ってはならない。ただ、事ごとに、感謝をもって祈と願いとをささげ、あなたがたの求めるところを神に申し上げるがよい。″(フィリピの信徒への手紙 4:6)しました。第二に、信頼で祈祷しなければなりません。信頼もなくただ言うための祈り、半信半疑の祈りをしてはならないです。信頼でする祈祷とは心を確定して求めるお祈りです。第三に、切実に祈祷しなければなりません。何を求めても神様に向かっていつも真剣で切実な思いで祈祷しなければなりません。第四に、貪欲を捨てて祈祷しなければなりません。自分が求めることが行われることによって信仰生活がだらけになって驕慢になったら貪欲に求めたものです。のもならず、望むように回答されないと不平をしたり、落胆したら貪欲に求めたものです。祈ったことの結果がどのようでも神様に感謝をすることあったら何でも多く求めてください。五つ、神様の口約束に意志して祈祷しなければなりません。聖書に記録された神様の口約束は神様を畏敬する者たちの幸福を向けてもらったものです。六番目、忍耐して、祈祷しなければなりません。神様は不公平な裁判官に行ってしつこく訴えて解決を受けた未亡人に関する話を比喩として'いつもお祈りして落胆してはいけないだろう'をおっしゃいました。7 番目、イエス・キリストの名前で祈祷しなければなりません。教会時代に生きるわたしたちが神に祈りする上で持つようになったとてもいい条件があります。それは、イエス・キリストの名前で祈祷することができるようになったのです。
人はお祈りすることができるために幸せです。神様と交通し、神様の助けることを受けることもありうるからです。祈る者は長け、強い人です。神様の権能の手が一緒にするからです。祈る者は、賢明な人です。神様の引き渡すことを受けるためです。聖書に啓示された祈祷の原理は誰も変更させることができません。お祈りの原理を啓示した神様が変わりがないからです。皆さんは、祈祷の原理通りに祈って神様の愛と権能と真実に対する体験が日増しに加わることを願います。
「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

確かに偉大なこの信心の奥義の秘密よ

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

人々は秘密に対してはすごい興味を持ちます．“これは秘密なのに”と始めを取り出せばその次に何のものが出るか関心を持ちます．秘密は多くの種類があります．ところでどんな秘密よりもっと価値あって重大な影響を及ぼす秘密があります．誰でも必ず分からなければならない秘密です．この秘密は隠されて来た事なのに神様がこれを現わしました．**コロサイ人への手紙 1 章 26 節，27 節に記録されるのを “その言の奥義は、代々にわたってこの世から隠されていたが、今や神の聖徒たちに明らかにされたのである。神は彼らに、異邦人の受くべきこの奥義が、いかに栄光に富んだものであるかを、知らせようとされたのである。この奥義は、あなたがたのうちにいますキリストであり、栄光の望みである。”**と言いました．すべての時代と世代から隠されて来た秘密を神様が現わしたがこの秘密は “イエスキリスト”です．
大きくて驚くべきな秘密であるキリストに関して今日の本文である テモテへの第一の手紙 3 章 16 節に六つで要約して説明しました．**“確かに偉大なのは、この信心の奥義である、「キリストは肉において現れ、霊において義とせられ、御使たちに見られ、諸国民の間に伝えられ、世界の中で信じられ、栄光のうちに天に上げられた」。”**

第一は、“彼は肉で現われたところなった”と言いました．

罪人を救いしようとイエスキリストが肉体を着て世の中へいらっしゃるということは隠されて来た秘密でした．その大きい秘密が公開されました．ヨハネ福音 1 章にはキリストが肉体でいらっしゃった事件をこんなに説明しました．**“初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。この言は初めに神と共にあった。すべてのものは、これによってできた。できたもののうち、一つとしてこれによらないものはなかった。” （ヨハネによる福音書 1:1～3)．“そして言は肉体となり、わたしたちのうちに宿った。わたしたちはその栄光を見た。それは父のひとり子としての栄光であって、めぐみとまことに満ちていた。”(ヨハネによる福音書 1:14)**．言葉が神様です．言葉が肉体になってこの世の中へいらっしゃった方がイエスキリストです．
だからイエス様と 聖父の神様と一体です．人間の経験と知識では理解するのが手ごわい秘密です．どんな人も直接その目で神様を見られないです．しかし神様が人の 肉体を着て世の中へいらっしゃったから人が神様を直接見るようになりました．ヨハネ福音 1 章 18 節に “**神を見た者はまだひとりもいない。ただ父のふところにいるひとり子なる神だけが、神をあらわしたのである。**”と言いました．
神様が人間の肉体で世の中へいらっしゃらなければならないわけは人間の罪をあがないするためだからです．神様が人類をあがないの計画を罪を犯したアダムとエバに知らせました．そして昔の族長たちに知らせたしその後予言者たちを通じて啓示なさいました．模型と影に啓示された人類のあがないの計画がイエスキリストが肉体を着て世の中へいらっしゃることで完全に現われて成就しました．

ヘブル人への手紙 9 章に記録されるのを **“しかしキリストがすでに現れた祝福の大祭司としてこられたとき、手で造られず、この世界に属さない、さらに大きく、完全な幕屋をとおり、かつ、やぎと子牛との血によらず、ご自身の血によって、一度だけ聖所にはいられ、それによって永遠のあがないを全うされたのである。”(ヘブル人への手紙 9:11,12)**と言いました．

二番目は、“霊において義とせられることを着た”と言いました．

イエスキリストが釘つけられて死なれてからまたよみがえられて彼の義のあることを現わすようになることは隠されて来た秘密でした．**ローマ人への手紙 8 章 11 節に “もし、イエスを死人の中からよみがえらせたかたの御霊が、あなたがたの内に宿っているなら、キリスト・イエスを死人の中からよみがえらせたかたは、あなたがたの内に宿っている御霊によって、あなたがたの死ぬべきからだをも、生かしてくださるであろう”**としました。 “イエスを死人の中からよみがえらせたかたの御霊”と言うのは聖霊様を意味します．イエス様の復活はイエス様は罪のない神様の子で私たちの罪を成功的に完全にあがないして義のある方だという事実をはっきりと現わしました．

三番目は、“御使たちに見られた”と言いました．

罪人たちがキリストのあがないによって救い受けることが天使たちには隠されて来た秘密でした．神様が罪を犯した人生たちを救いしようと計画した事がどんなに成就するはずなのかを天使たちは分からなかったです．しかしキリストが世の中へいらっしゃってあがないの使役を行うので天使たちもその秘密が分かるようになったしキリストのあがないの使役すべての過程を通じて天使たちも決まった役目を引き受けました．救世主イエス様の誕生を知らせる事をしました．天使ガブリエルがヨセフそしてマリアにイエス様の誕生に対して知らせました．野原で羊を飼う牧者たちにまた天使たちが現われて“極めて高い所では神様に光栄であり地では喜ぶことを受ける人々の中に平和である”と知らせました．キリストが復活した夜明けに墓を尋ねた女人たちに天使が現われて言うのを “どんな理由であなたがたは生きている方を死人の中で捜しているのか? その方はここにいらっしゃらないでよみがえらせた”と言いました．キリストが昇天なさる時に二りの天使がその所に集まった弟子たちにイエス様がまたいらっしゃることを予告しました．

四番目は、“諸国民の間に伝えられで”と言いました．

イエスキリストが万国に伝えることは隠されて来た秘密でした．ところでこの秘密がいよいよ公開されて事実化されました．復活したキリストが弟子たちに言いつけるのを **“それゆえに、あなたがたは行って、すべての国民を弟子として、父と子と聖霊との名によって、彼らにバプテスマを施し、あなたがたに命じておいたいっさいのことを守るように教えよ。見よ、わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいるのである」。”(マタイによる福音書 28:19,20)，“そして彼らに言われた、「全世界に出て行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えよ。信じてバプテスマを受ける者は救われる。しかし、不信仰の者は罪に定められる。” （マルコによる福音書 16:15,16)**と言いました．今日に至って福音は全世界に伝えました．

五番目は、“世の中で信じたところになった”と言いました．

多くの国の人々がイエス様を信じるようになることは隠されて来た秘密でした．“イエス様は救世主だ.” と信じることが決してたやすい事ではないです．しかし神様の選ばれることを受けた人々は福音を聞いて信じるようになります．ペテロがエルサレムで聖霊が充満して福音を伝えたら一日に 3 千名，5 千名ずつイエスキリストを信じました．パウロとバナバが福音を伝えたら **“異邦人たちはこれを聞いてよろこび、主の御言をほめたたえてやまなかった。そして、永遠の命にあずかるように定められていた者は、みな信じた。”(使徒行伝 13:48)**と言いました．パウロ使徒がコリントで福音を伝える時でした．夜に神様が幻想の中でパウロにおっしゃるのを **“「恐れるな。語りつづけよ、黙っているな。あなたには、わたしがついている。だれもあなたを襲って、危害を加えるようなことはない。この町には、わたしの民が大ぜいいる」。”(使徒行伝 18:9,10)**と言いました．福音を伝えることは私たちがしなければならない義務で特権です．福音を聞く者が信じるようになることは神様の仕事です．

六番目は、“栄光のうちに天に上げられた”と言いました．

イエス様の昇天は隠されて来た秘密でした．イエスキリストが復活した姿を 40 日間弟子たちに現わしたように見えた後に甘藍山の上で多い弟子たちが見るうちに昇天なさいました．イエス様の昇天はあがない使役を完成した栄え栄えしい昇天です．神様の宝座の右側に座るための昇天です．昇天なさったイエス様は私たちが生きる所を予備なさった後に私たちをその所で永遠に住むように迎えに出ます．イエス様の昇天は来臨を約束している昇天です．使徒行伝 1 章に記録されました．**“こう言い終ると、イエスは彼らの見ている前で天に上げられ、雲に迎えられて、その姿が見えなくなった。イエスの上って行かれるとき、彼らが天を見つめていると、見よ、白い衣を着たふたりの人が、彼らのそばに立っていて 言った、「ガリラヤの人たちよ、なぜ天を仰いで立っているのか。あなたがたを離れて天に上げられたこのイエスは、天に上って行かれるのをあなたがたが見たのと同じ有様で、またおいでになるであろう」。”(使徒行伝 1:9～11)．**

イエスキリストのことばの肉体となり，あがないの死，復活，昇天そして広範囲な福音の伝えると幾多の民族がイエス様を信じて救いをもらうようになるこの皆がながねんの歳月隠されて来た秘密でした．時にいたってイエスキリストのよる永生と救いの大きくて驚くべきな秘密が完全に公開されました．漸進的に啓示されて来てから完全に公開された秘密になりました．これは誰も否定することができない厳然な歴史的な事実です．**“確かに偉大なのは、この信心の奥義である、「キリストは肉において現れ、霊において義とせられ、御使たちに見られ、諸国民の間に伝えられ、世界の中で信じられ、栄光のうちに天に上げられた」。”(テモテへの第一の手紙 3:16)**．皆さんはこのように大きくて ありがたい秘密が分かるので救いを得たその喜びを持ってパウロ使徒といっしょに “確かに偉大なこの信心の奥義の秘密，イエスキリストの秘密よ”と音高めて福音を伝えながら生きて行くように願いします．